

箕面市の概要

箕面市の地勢

箕面市は、大阪府の北西部に位置し、東は茨木市、西は池田市及び川西市、南は吹田市及び豊中市、北は豊能町に隣接しており、昭和 31 年 12 月 1 日に市制を施行し、大阪府下 24 番目の市として誕生しました。

現在、人口は約 13 万 3 千人、市域は、東西 7.1 k m、南北 11.7 k m、面積 47.84 k m²で、北部は、市域の約 3 分の 2 を占める北摂山系箕面連山からなり、明治の森箕面国定公園を擁し、自然に恵まれた住宅都市として発展しています。

また、名滝「箕面大滝」とともに東海自然歩道の起点として知られ、大都市の近郊にありながら豊かな自然が残り、桜や紅葉の季節には近郊から大勢の観光客が訪れます。

南部には、一大流通センターである大阪船場繊維卸商団地があり、中部には、平成 15 年に大型商業施設が整備された箕面新都心「かやの中央」が、翌年には東部に、国際文化公園都市「彩都」がまちびらきしました。

また、平成 19 年 5 月には、北部の山を貫通し、大阪府下で最長となる箕面グリーンロードトンネル(坑道距離 5.6 km)が開通するとともに同年 10 月には、同トンネルを抜けた北部に水と緑の健康都市「箕面^{しんまろ}森町」がまちびらきしました。

市では、難波、梅田、新大阪と直結している北大阪急行線を千里中央から北に位置する船場地区、かやの中央地区まで延伸する計画を進めるなど、21 世紀にふさわしい、環境を生かした新しい街へと発展しています。

箕面市の変遷

本市域の母体は、明治 22 年 4 月 1 日の町村制施行によりつくられた箕面村、萱野村、止々呂美村の 3 村で、昭和 23 年 1 月 1 日に町制施行により箕面村が箕面町となり、同年 8 月 1 日に萱野村、止々呂美村と合併、昭和 31 年 12 月 1 日には三島郡豊川村と合併して市制を施行しました。その後、昭和 32 年 4 月 1 日に茨木市の川合地区を編入し現在のかたちになりました。